



日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

087301774

2495

Handwritten signature and date 11/17/94

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1 9 9 3 年 9 月 2 0 日

出 願 番 号
Application Number:

平成 5 年特許願第 2 5 6 5 7 1 号

出 願 人
Applicant (s):

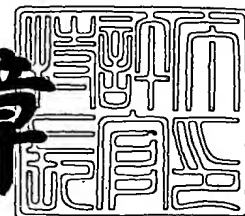
株式会社半導体エネルギー研究所

1 9 9 4 年 8 月 5 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

高 島

章



出証番号 出証特平 0 6 - 3 0 3 8 8 4 4

【書類名】 特許願

【整理番号】 P002495-09

【提出日】 平成 5年 9月20日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02F 1/00

【発明の名称】 液晶表示装置

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷 3 9 8 番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

【氏名】 小沼 利光

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷 3 9 8 番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

【氏名】 辻 隆博

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県厚木市長谷 3 9 8 番地 株式会社半導体エネルギー研究所内

【氏名】 森谷 幸司

【特許出願人】

【識別番号】 000153878

【氏名又は名称】 株式会社半導体エネルギー研究所

【代表者】 山崎 舜平

【手数料の表示】

【納付方法】 予納

【予納台帳番号】 002543

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

特平 5-256571

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】

表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在していることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項2】

表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在し、かつ前記駆動回路領域の周辺の少なくとも一部にはシール剤を有することを特徴とする液晶表示装置。

【請求項3】

表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在し、少なくとも前記対向基板と前記駆動回路領域の間には樹脂材料が充填されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項4】

表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在し、前記駆動回路領域の周辺の少なくとも一部はシール剤により囲

われており、該囲われた領域内であって前記対向基板と前記駆動回路領域の間には樹脂材料が充填されていることを特徴とする液晶表示装置。

【請求項5】

請求項1または請求項2または請求項3または請求項4において、対向基板における駆動回路領域に対向する領域に駆動回路が形成されていることを特徴とする液晶表示装置

【発明の詳細な説明】

【0001】

【従来の技術】

従来、液晶表示装置、特に各画素に薄膜トランジスタ等のアクティブ素子を設けてマトリクス構成をしたアクティブマトリクス型の液晶表示装置において、各画素に接続したアクティブ素子を有する基板上に、各画素に印加する信号を制御する駆動回路をも一体化して設けた、いわゆるモノリシック型の構成が知られている。駆動回路は通常、マトリクスを構成する表示部のアモルファスシリコン薄膜トランジスタを形成する際に同時に形成された後、駆動回路部分のみレーザー照射などにより結晶化を行って結晶化シリコン薄膜トランジスタに変成することにより構成されていた。

【0002】

この構成の装置において、図1に示すように、駆動回路が形成された基板1に対向する対向基板2は液晶材料3が存在する表示領域5上にまでしか存在せず、駆動回路部分6は樹脂7等で覆われているだけで、何等の工夫もされていなかった。

【0003】

【従来技術の問題点】

しかしながら、このような従来の構成では、駆動回路部分に対して外力などが加わった際に、容易に駆動回路が破壊されやすく、故障の原因になっていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

本発明はこのような、同一基板上に表示部分と駆動回路部分を有する液晶表示

装置において、駆動回路部分を保護し、かつ信頼性を高めるための構成を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記課題を解決するために、表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在していることを特徴とする液晶表示装置である。

【0006】

また、本発明は、表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在し、かつ前記駆動回路領域の周辺の少なくとも一部にはシール剤を有することを特徴とする液晶表示装置である。

【0007】

また、本発明は、表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動回路領域に対して対向して存在し、少なくとも前記対向基板と前記駆動回路領域の間には樹脂材料が充填されていることを特徴とする液晶表示装置である。

【0008】

また、本発明は、表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有し、前記表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、該基板と対向する対向基板と、該基板間に液晶材料を有する液晶表示装置であって、前記対向基板は前記表示領域および前記駆動

回路領域に対して対向して存在し、前記駆動回路領域の周辺の少なくとも一部はシール剤により囲われており、該囲われた領域内であって前記対向基板と前記駆動回路領域の間には樹脂材料が充填されていることを特徴とする液晶表示装置である。

【0009】

また、本発明は上記構成において、対向基板における駆動回路領域に対向する領域に駆動回路が形成されていることを特徴とする液晶表示装置である。

【0010】

【作用】

本発明の液晶表示装置は、表示領域とそれにおける表示の制御を行う駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有する液晶表示装置において、駆動回路領域に対向する部分においても対向基板が存在し、それにより駆動回路を保護することができ、外圧や衝撃に対して強い装置とすることができる。

【0011】

さらに少なくとも駆動回路領域と対向基板との間に樹脂材料を充填することにより、水分等の侵入を防止し、装置の信頼性の向上を図ることができる。

【0012】

また、駆動回路領域に対向する対向基板の領域に、別の駆動回路等を設けてもよく、これにより多層基板状の構造として、基板面積を大きくすることなく、駆動回路領域を増加させることができる。

【0013】

【実施例】

〔実施例1〕

コーニング7059ガラス基板10上に図2(A)に示すように、表示領域12にはアモルファスシリコンTFTを形成し、駆動回路領域13にはアモルファスシリコンTFTに対してレーザー照射を行ってレーザー結晶化された結晶性シリコンTFTとし、必要に応じてSiN、SiO₂、PSG（リン珪酸ガラス）、BSG（ホウ珪酸ガラス）、ポリイミドなどのパッシベーション膜で覆って駆動回路を構成した。表示領域12においては、この後画素電極等を形成し、64

0×480のマトリクスを構成した。

【0014】

次に、対向電極としてITO（酸化インジウム・スズ）が表示領域部分もしくは全面に形成された、対向する基板の駆動回路部分をも覆う大きさの対向基板11上に、シール剤14ここでは紫外線硬化型の樹脂を、図2（B）に示すように表示領域12と駆動回路領域13をそれぞれ別に囲うようにスクリーン印刷する。このとき、表示領域を囲うシール剤は液晶注入口15を形成しておく。また駆動回路領域を囲うシール剤は駆動回路の周りすべてを囲わなくてもよい。表示領域のみを囲って駆動回路領域には設けなくてもよい。またシール剤にスペーサが含有されていてもよい。

【0015】

基板10の表示領域上にスペーサを散布したのち、基板10と対向基板11を張り合わせ、紫外線を照射して硬化させた。

【0016】

この後、張り合わせた基板全体を減圧状態にして表示領域内に液晶材料16を注入、封止した。

【0017】

このようにして形成された液晶表示装置を図3に示す。この装置は従来の、同一基板上に表示領域と駆動回路が形成された液晶表示装置であって、駆動回路上に対向するガラス基板のない、駆動回路を樹脂などのみで覆った構成のものと比較して、外圧に対して極めて強く、駆動回路の破壊を防ぎ、十分に保護することができた。また作製工程も極めて容易である。

【0018】

〔実施例2〕

実施例1と同様に形成した、表示領域と駆動回路を有する基板10および対向電極が形成された対向基板11において、対向基板11上にシール剤14ここでは紫外線硬化型の樹脂を、図4（A）に示すように表示領域12を囲うようにスクリーン印刷する。このシール剤にスペーサが含有されていてもよい。このとき、液晶注入口15を形成しておく。

【0019】

駆動回路領域13に対向する部分には、基板10と対向基板11を張り合わせた時に少なくとも駆動回路領域上に十分に充填されるように樹脂材料17たとえば紫外線硬化型の樹脂やエポキシ樹脂をスクリーン印刷またはポッティングする。シール剤と同じ材料を用いても良い。シール剤、樹脂は、対向基板側ではなく、表示領域および駆動回路を有する基板側に盛ってもよい。

【0020】

基板10の表示領域上にスペーサを散布したのち、基板10と対向基板11を張り合わせ、シール剤、駆動回路上の樹脂を硬化させる。

【0021】

この後、張り合わせた基板全体を真空状態にして表示領域内に液晶材料16を注入、封止した。

【0022】

このようにして形成された図4(B)の液晶表示装置は、実施例1と同様に外圧に対して駆動回路を保護することができたとともに、駆動回路部分への水分などの侵入を十分に防いで高い信頼性を有するものとなった。

【0023】

〔実施例3〕

実施例1と同様に形成した、表示領域と駆動回路を有する基板10および対向電極が形成された対向基板において、対向基板11上にシール剤14としてここでは紫外線硬化型の樹脂を、図5(A)に示すように液晶注入口15を形成して対向する表示領域12を囲うようにスクリーン印刷する。シール剤にはスペーサが含有されていてもよい。

【0024】

基板10の表示領域上にスペーサを散布したのち、基板10と対向基板11を張り合わせ、シール剤を硬化させる。

【0025】

この後、張り合わせた基板全体を真空状態にして表示領域内に液晶材料16を注入、封止した。

【0026】

次に、0.01～10 torr 程度の減圧下で両基板の間の部分に樹脂材料（ここでは紫外線硬化型）を乗せ、常圧または加圧状態にすると樹脂材料がシール材周辺まで入り込み、駆動回路領域13の基板間にも樹脂材料17が充填される。この後紫外線を照射して樹脂を硬化させた。

【0027】

両基板の大きさを同じくすると、樹脂を両基板側面に乗せることができるので作製が容易となる。また液晶材料の注入を樹脂の充填・硬化の後に行ってもよい。

【0028】

このようにして形成された図5（B）に示す液晶表示装置は、実施例2と同様、水分などの侵入を十分に防いで高い信頼性を有するものとなった。

【0029】

〔実施例4〕

実施例1と同様に形成した、表示領域と駆動回路を有する基板10および対向電極が形成された対向基板において、対向基板11上にシール剤14としてここでは紫外線硬化型の樹脂を、図6に示すように液晶注入口15および樹脂注入口18を形成するようにスクリーン印刷を行った。シール剤にはスペーサを混ぜてもよい。

【0030】

基板10の表示領域上にスペーサを散布したのち、基板10と対向基板11を張り合わせ、シール剤を硬化させる。

【0031】

この後、張り合わせた基板全体を0.01～10 torr 程度の減圧状態にして表示領域内に液晶材料16、駆動回路を囲った領域内に樹脂材料17（ここでは紫外線硬化型）を前述の注入口15、18から注入した。注入は同時に行ってもよいが、液晶材料と樹脂が蒸発して混合しないように別々に行ってもよい。

それぞれ、常圧または加圧状態にすると樹脂材料17がシール材で囲われた領域内に入り込み、駆動回路部分の基板間に充填される。この後紫外線を照射して

樹脂を硬化させた。

【0032】

このようにして形成された図6（B）に示す液晶表示装置は、実施例2および実施例3と同様、水分などの侵入を十分に防いで高い信頼性を有するものとなった上、極めて作製が容易となった。

【0033】

これら実施例において、駆動回路は一方の基板のみでなく、上下の基板に形成されていてもかまわない。その場合上下基板の駆動回路の電氣的接続を行うのであれば銀ペーストや導電性スペーサ等を使用すればよい。また液晶材料はネマチック、スメクチック等どんなものであってもよい。また各実施例の図面においては基板10、11は同じ大きさに描かれているが、対向基板が駆動回路領域にも存在するのであれば、両基板の大きさは任意である。基板10を大きくすると電極の接続が容易になる。

【0034】

また本実施例においては表示領域が薄膜トランジスタを用いたアクティブマトリクス駆動型の装置を示したが、MIMダイオード等の非線形素子を用いた装置、単純マトリクス駆動型の装置などにおいても、本発明は有効である。

【0035】

【発明の効果】

本発明により、表示領域とそれにおける表示の制御を行う駆動回路が形成された駆動回路領域を同一基板上に有する液晶表示装置において、外圧等から駆動回路を保護することができた。さらに上下の基板を張り合わせた段階でスクライバーで切断して複数の液晶表示パネルを大きな面積の基板から多面取りする場合、スクライバーの衝撃等から駆動回路を保護することができ、歩留りを向上できた。

【0036】

さらに駆動回路領域と対向基板との間に樹脂材料を充填することにより水分等の侵入を防止し、装置の信頼性の向上を図ることができた。

【0037】

また、駆動回路領域に対向する対向基板の領域に、別の駆動回路等を設けてることで多層基板状の構造として、基板面積を大きくすることなく、駆動回路領域を増加させることができた。

【図面の簡単な説明】

【図1】 従来の液晶表示装置を示す。

【図2】 本発明の液晶表示装置の実施例を示す。

【図3】 本発明の液晶表示装置の実施例を示す。

【図4】 本発明の液晶表示装置の実施例を示す。

【図5】 本発明の液晶表示装置の実施例を示す。

【図6】 本発明の液晶表示装置の実施例を示す。

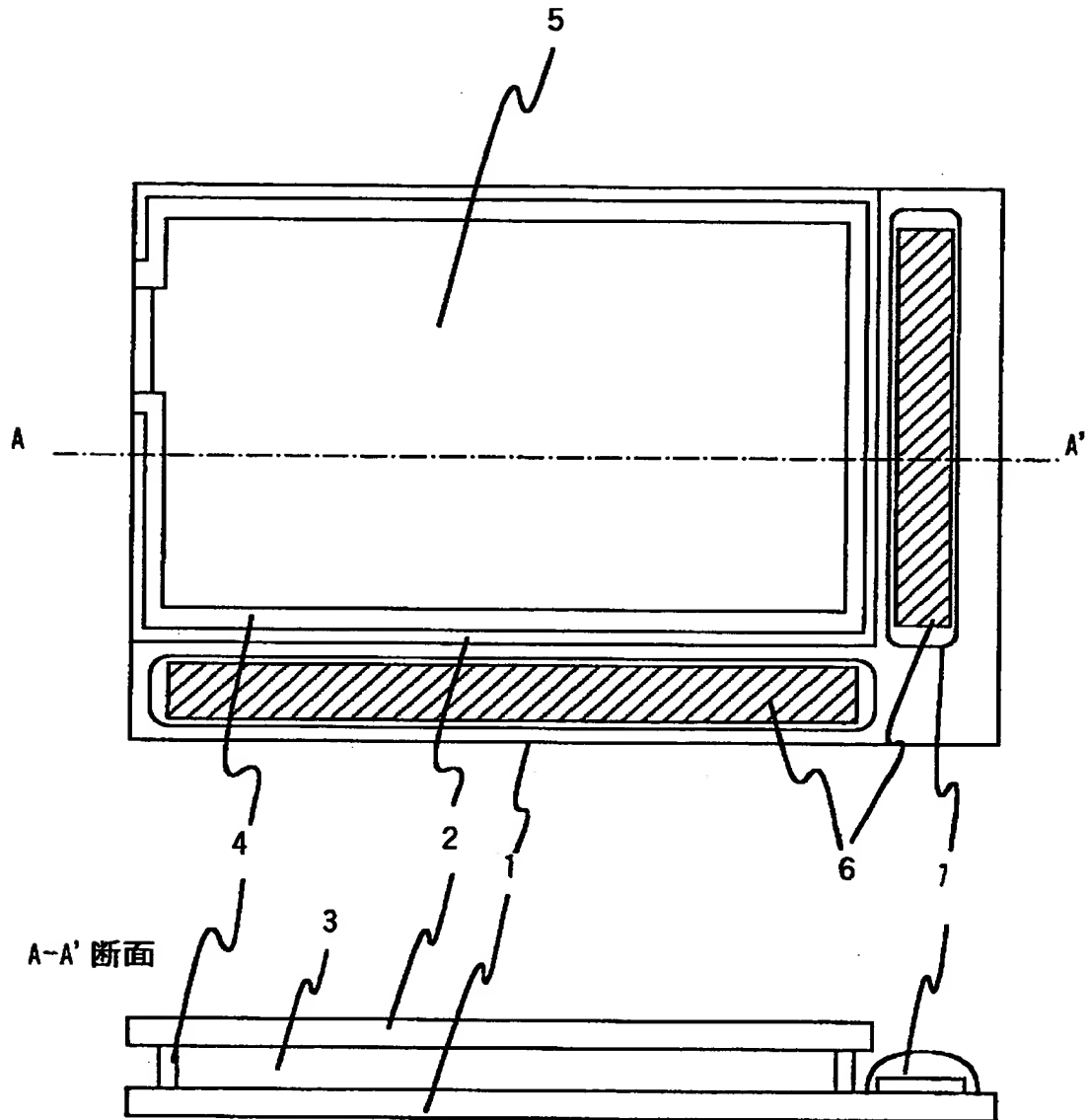
【符号の説明】

- 1 基板
- 2 対向基板
- 3 液晶材料
- 4 シール剤
- 5 表示領域
- 6 駆動回路
- 7 樹脂
- 10 基板
- 11 対向基板
- 12 表示領域
- 13 駆動回路
- 14 シール剤
- 15 液晶注入口
- 16 液晶材料
- 17 樹脂材料
- 18 樹脂注入口

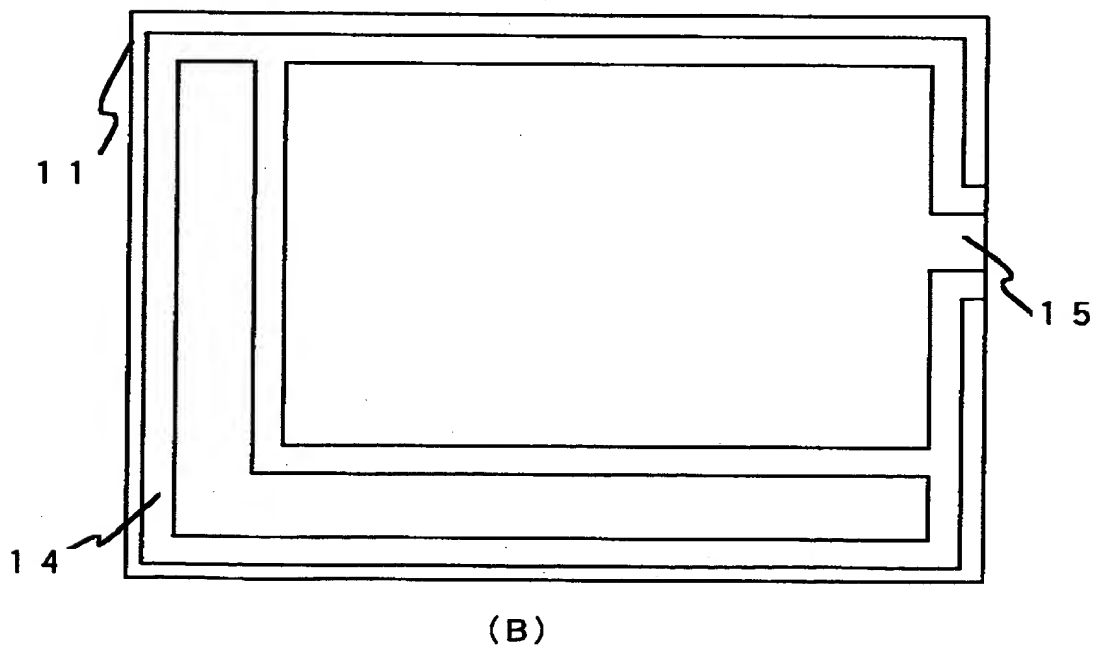
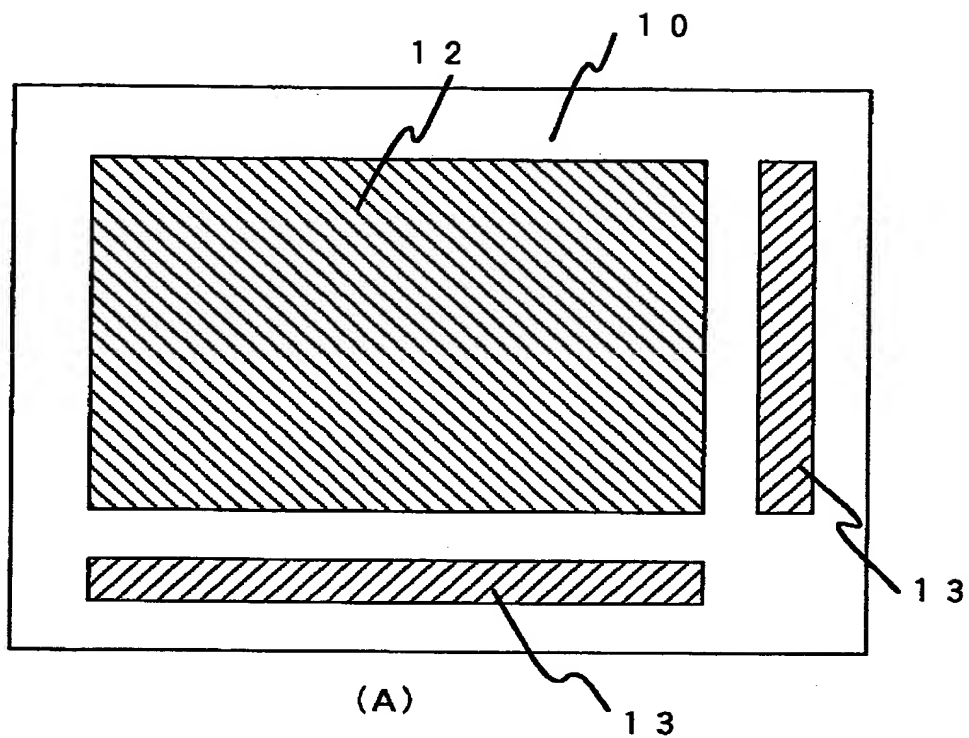
【書類名】

図面

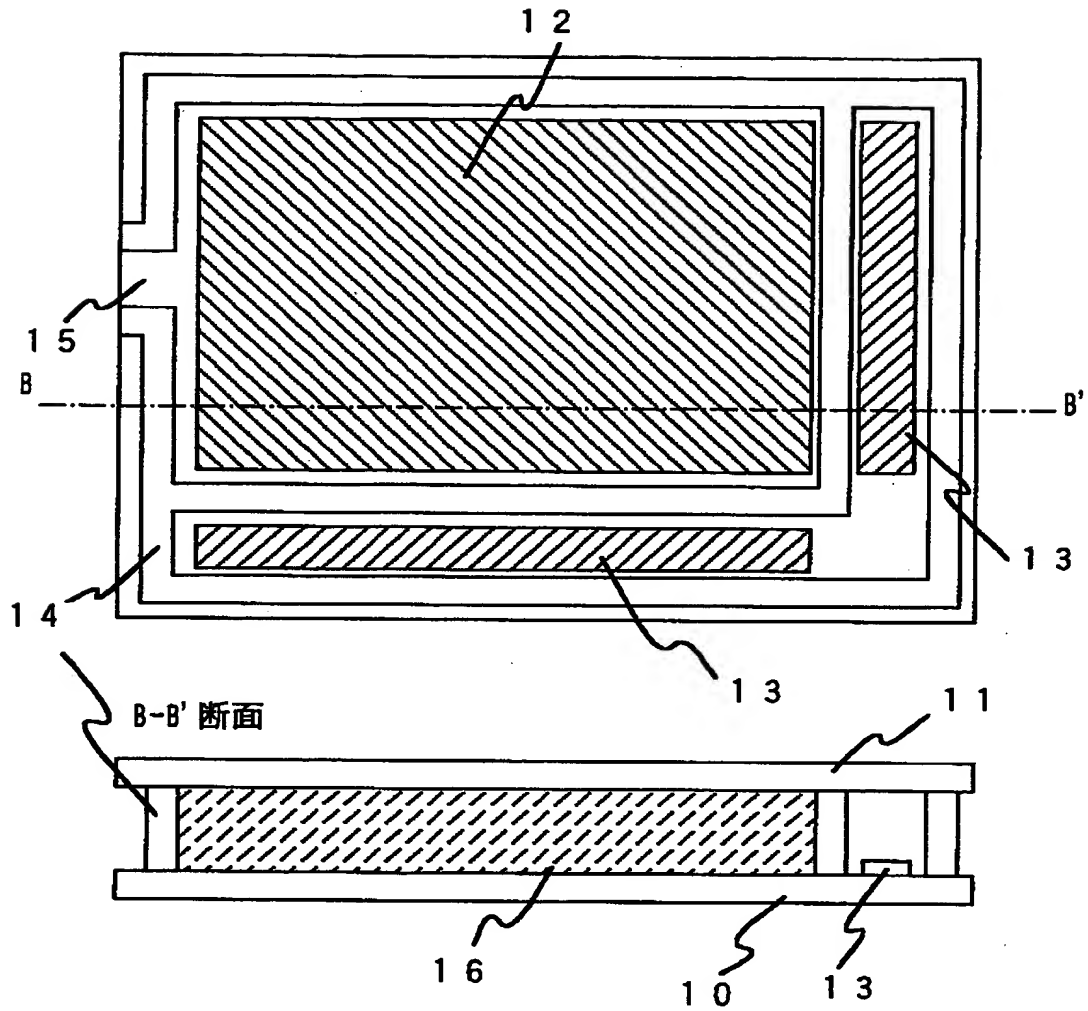
【図1】



【図2】

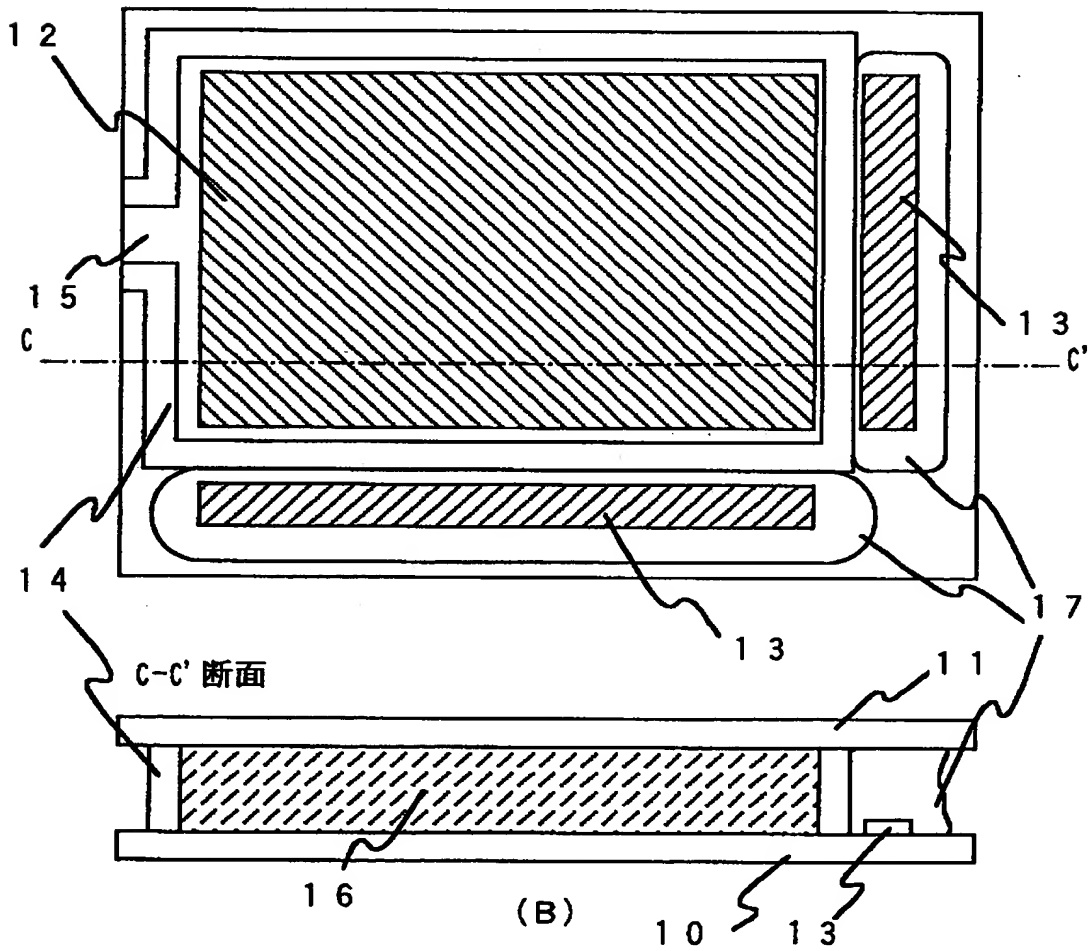
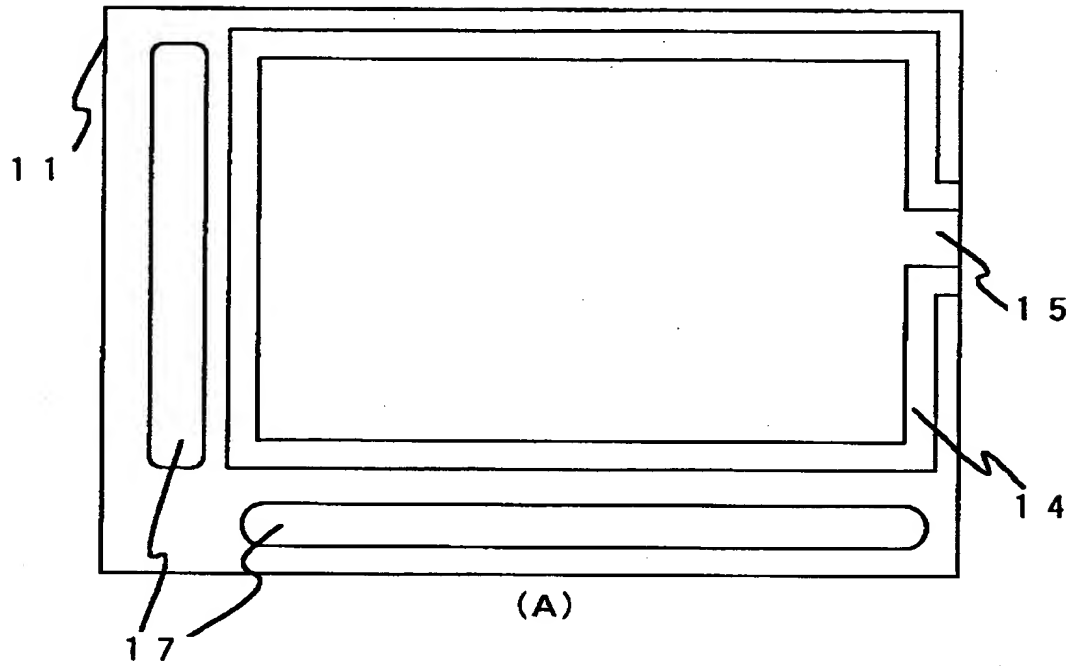


【图3】



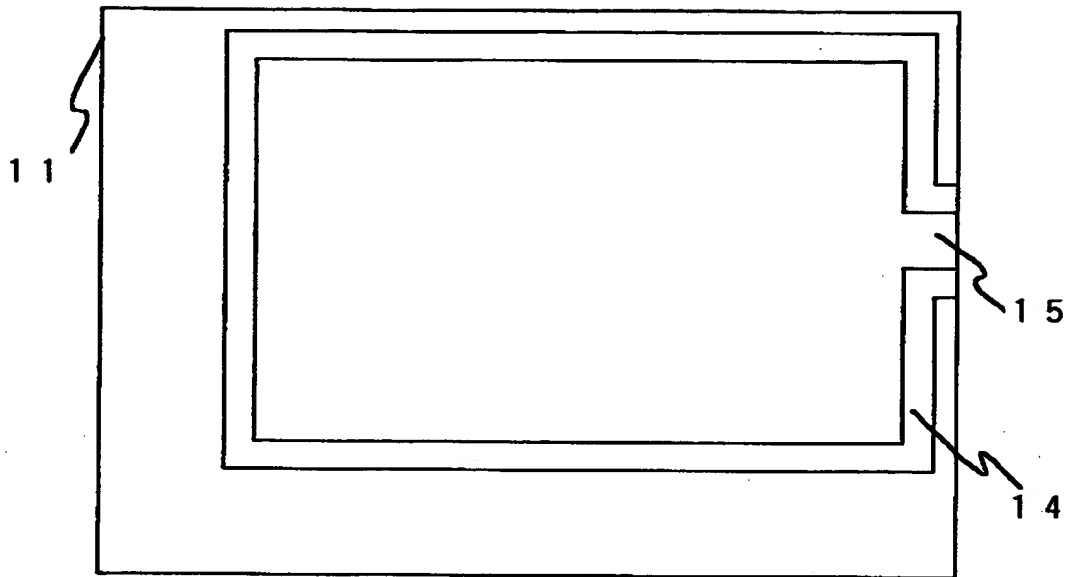
特平 5－256571

【図4】

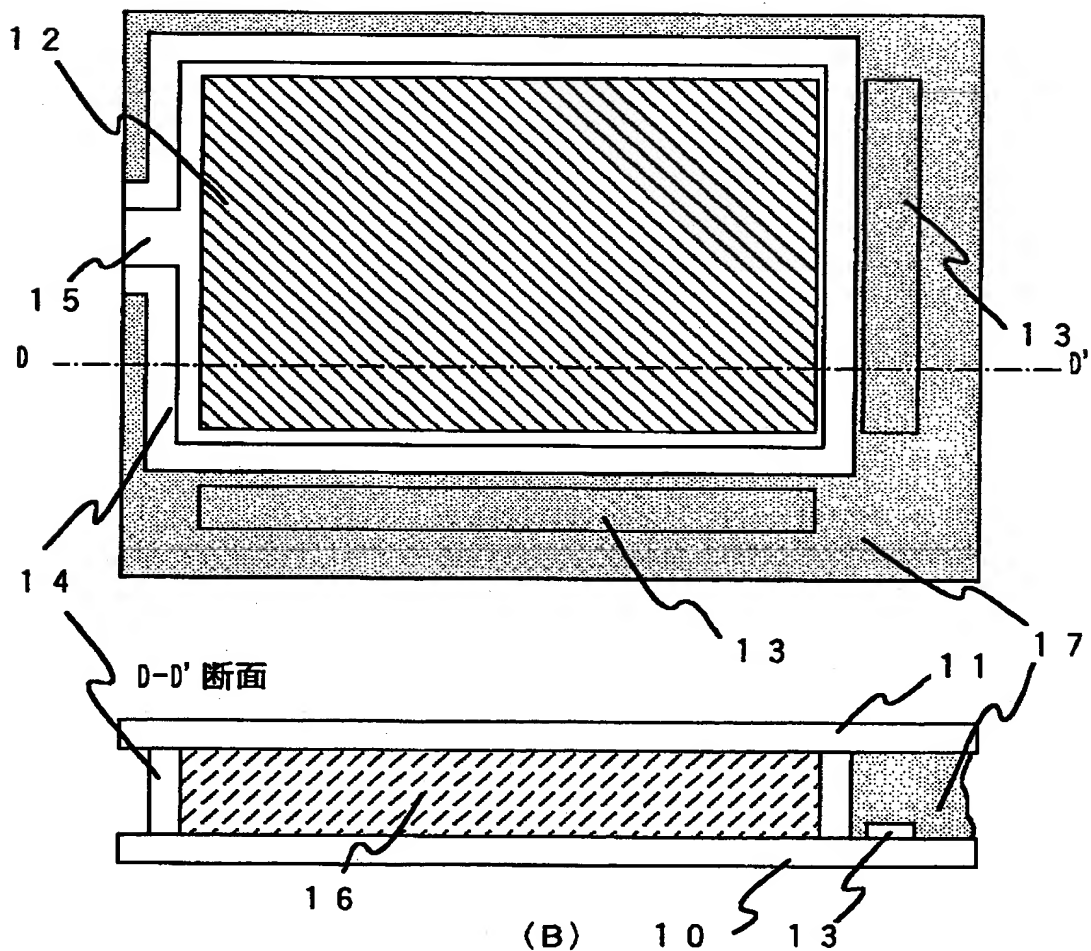


特平 5-256571

【図5】



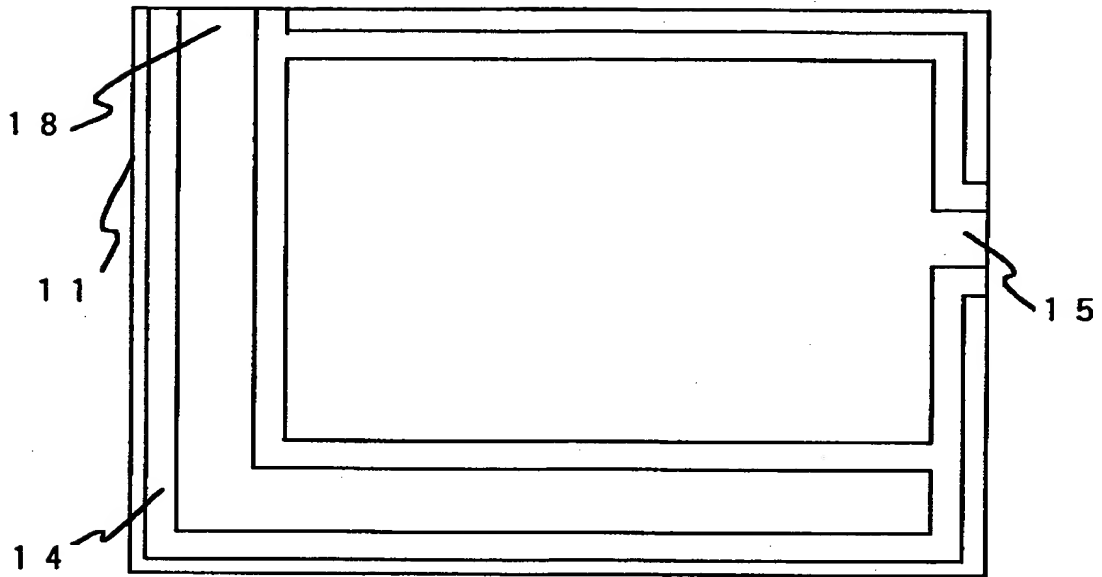
(A)



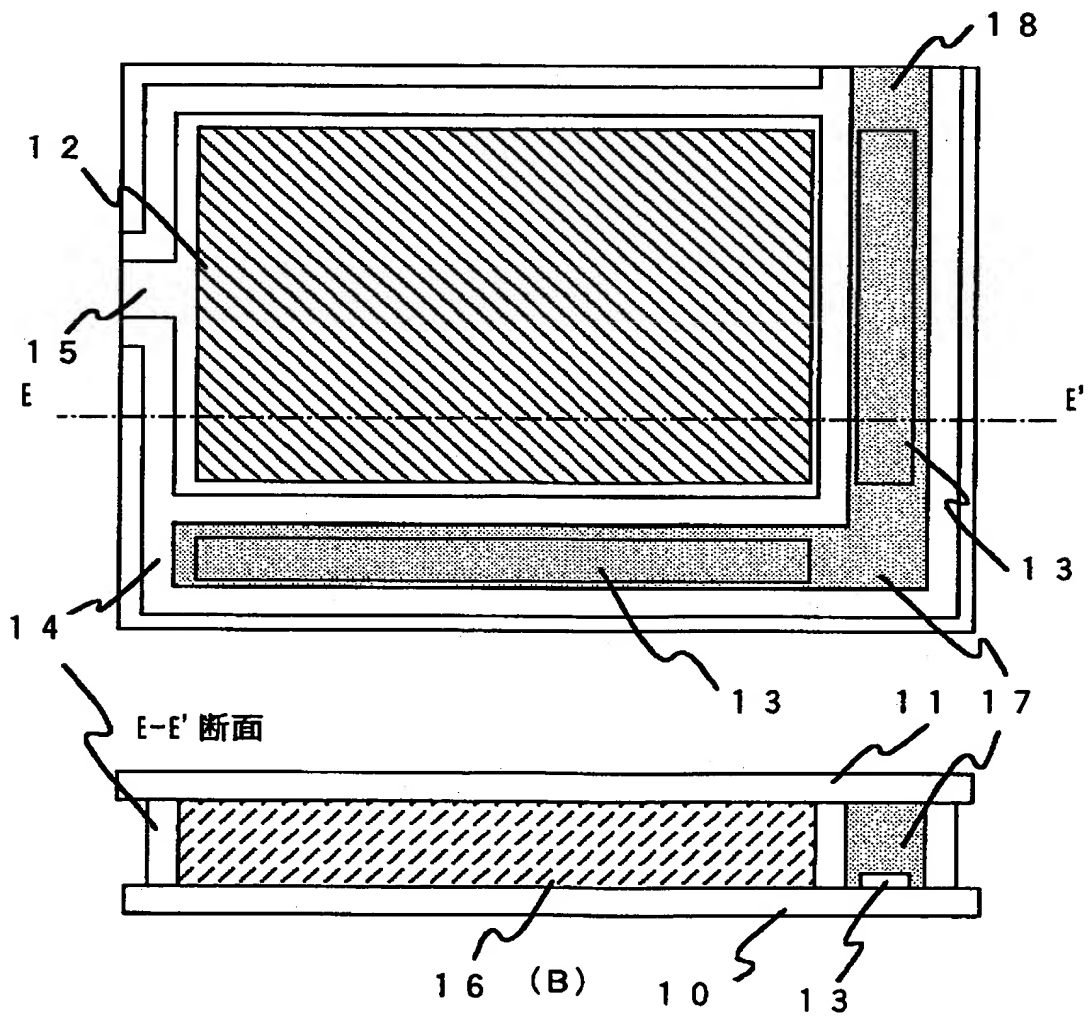
(B)

特平 5-256571

【図6】



(A)



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 同一基板上に表示部分と駆動回路部分を有する液晶表示装置において、駆動回路部分を保護し、かつ信頼性を高める。

【構成】 同一基板上に表示領域と該表示領域の表示を制御するための駆動回路が形成された駆動回路領域を設け、表示領域と駆動回路領域はシール剤によって仕切られており、対向基板は表示領域だけでなく駆動回路領域に対しても対向して存在する。

【選択図】 図3

【書類名】

職権訂正データ

【訂正書類】

特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

申請人

【識別番号】

000153878

【住所又は居所】

神奈川県厚木市長谷398番地

【氏名又は名称】

株式会社半導体エネルギー研究所

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000153878]

1. 変更年月日	1990年 8月17日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県厚木市長谷398番地
氏 名	株式会社半導体エネルギー研究所